

平成 28 年度 第 1 回 富山県公共事業評価委員会の概要

1 日 時 平成 28 年 7 月 21 日(木) 14:00～16:00

2 場 所 富山県民会館701号室

3 出席者 長尾委員(会長)、野尻委員、上坂委員、江幡委員、高田委員、手計委員、眞岸委員

4 審議内容(重点審議対象箇所について、パワーポイントで説明)

【土木部事業】(村岡次長) 重点審議対象8件

【農林水産部事業】(清水参事) 重点審議対象2件

【土木部説明に対する主な意見】

○一般国道 471 号 利賀バイパス

(委員)

- ・ 利賀地域を結ぶ道路として生活道路であるということ、また、観光に対する効果という面で非常に重要な道路であると思う。また、一方では通行止めの状況からして、土砂崩れ等、非常に危険な道路でもあるので、県民の生命とか財産を確保する観点からも早急な完成が望まれているのかなと思った。しかしながら、事業費も非常に大きいのだが、完成予定がこの工事のみ「未定」になっている理由を聞きたい。

⇒国の方で計画された利賀ダムの施工とあわせて事業を進めており、利賀ダムの工事用道路を活用するものである。ダム事業自体に関し、平成 21 年、当時は自民党政権から民主党政権へ交代した直後だが、民主党の公約として「できるだけダムに頼らない治水」というのがあった。全国のダム事業について「本当にダムしかないのか、他の違う手段がないのか」を検証するよう全国的に指令が発せられた。利賀ダムもその対象となり、事業者である国で検証作業を行っていた。平成 22 年から始まり 6 年経過したのだが、今ようやく、その検証作業が終わりに近づいているという段階である。ただ事業がダム建設の方向に進むというはっきりとした方針が示されておらず、何年とは言えないため、「未定」と記載している。検証作業が今年に入って進んできたので、近い時期には国としての方針が決定されるものと思っている。ダムとして方針が決定され、整備が進めば、その進捗にあわせて道路の整備も進んでいくものと考えている。

○小矢部川水系谷内川

(委員)

- ・ 背水のバックウォーターというのは、水理学的に本川からの水がバックウォーターしているという意味なのか、支川の水が本川に入りきらないという意味のバックウォーターなのか、どちらなのか。

⇒本川のバックの影響区間が合流点から約 2km 及ぶという趣旨である。ただ、合流点処理は国との調整があるので、それに見合った形で事業を進める必要がある。

(委員)

- ・ どちらの場合でも、線形を変えた方がいい場合もある。別の事業でそういったことがあれば、是非ご検討いただきたい。新潟でもバックウォーターで線形を変えた事例がある。

○庄川水系地久子川

(委員)

- ・ あいの風鉄道の橋梁部のネックになっている所を広げ、流下能力が上がったときの下流側の流下能力との関係についてご説明願いたい。
⇒下流側から事業を進めてきており、その上流側があいの風鉄道となるので、下流に負担をかけない改修となっている。

○砂防事業全般

(委員)

- ・ 全ての事業について「保全対象となる人家戸数や公共施設数等に変化がなく、事業効果が高い」という文言について「(変化が)なく and 事業効果が高い」なのか、「(変化が)ないから、それゆえ事業効果が高い」なのか、どちらなのか。
⇒「変化がなく、本事業による効果が高い」という意味で、もともと計画した際の事業効果と変わらないので高いという趣旨である。

(委員)

- ・ 例えば庄川水系の大谷だが、人家の戸数が1戸から1戸と変わらないということで、B/Cの算出には必要だとは思いますが、例えば、東海北陸自動車道が通れなくても国道156号が代替ルートになるとか、重要性が他にもっとあるのではないか。人家を守るとはもちろん大事だが、逆に国道156号を守ることの方が、プライオリティがあるのではないか。
- ・ 山口、広島の土石流災害を考えれば、県ではなく、一般市民の心だと思うが、「砂防ダムがあるとなぜか安心」という時代でもないし、実際、数戸だけを守ることになるし、事業費はそんなに高くないので、その金額で施設を動かすのは難しいのは分かるのだが、何となく違和感がある。
⇒庄川大谷について保全対象の人家が1戸と少ない感があると思われるかもしれないが、国道156号という、地域では欠かすことのできない道路があり、そちらも、B/Cには反映している。この道路は欠かせないものであるので、そういう意味でもこの事業は必要であると考えている。

(委員)

- ・ 砂防堰堤を設置する際に、透過型と不透透型があるが、その違いを設けた理由は。
⇒砂防堰堤の目的というのは土砂が一気に流れないように止める、溜めるということであり、場所によって色々あるが、堰堤を設ける上流側の勾配が急だとあまり溜められないので、目標とする量を溜める場合には、非常に大きいものを作る必要がある。溜まったら取らないとポケットができないわけで、透過型にしておけば、ポケットを維持しながら比較的低い高さにできる。上流の勾配やその他の条件によって選定が変わってくる。

(委員)

- ・ 砂防堰堤は小水力の取水用の装置として非常に優秀な面があり、例えば、臼中ダムの下流側の打尾川だが、臼中に既に発電所があるので流量は十分に足りていると思う。そういう意味では、後で発電設備を設置することや、あるいは、同時に設置するというような設計はあり得ないものなのか。
⇒砂防事業としては目的が異なるので、砂防事業として発電設備を作るのは難しいだろうとは思いますが、

「砂防ダムにある水をうまく利用する」という考えはあるとは思う。実際、県内でも砂防堰堤の水を利用して小水力発電をやっている事例は幾つかあると思う。堰堤を作る際にあたり、そこまでできるかどうかは、発電を企画する、やりたいという方々がいるかにもよるかとは思いますが、後から設置することも不可能ではないと思う。

(委員)

- ・ そういう意味では、B/C が良くなる方向になるものと思うので、また検討してもらえればと思う。

【農林水産部説明に対する主な意見】

○水戸田地区（農地整備）

(委員)

- ・ 農業の場合、直接的な効果と二次的な効果に分けて考えられると思う。大区画化することによって生産効率が上がるというのが直接的、一次的な効果。担い手への集約化や、担い手の経営体質の強化等は、二次的、副次的な効果だと思う。これらを高めていくためには、これらに対する政策等が相まってないと、（水戸田地区についてはうまくいっているようだが、）片手落ちになる場合があるのではないかと考える。新たな作付けを行っているのを経営体質の強化ととらえるなら、販路の開拓も同時に進めていかないと、作る場所はできたが、その先が続かないのではないか。売り方の体制づくり等経営ノウハウに関して如何にバックアップしていくか、また法人化・担い手への集約化についても、どのように組織化していくか、バックアップの対応がないと、片手落ちになってしまう可能性があるのではないか。

⇒水戸田地区の場合、担い手への集約化、経営体質を強化するといったことは、この事業を導入する際の要件でクリアされていると考える。水戸田地区の担い手への農地集積率は100%、着工前は、集落営農中心だったものが、現在は、設備投資や内部留保等が可能な法人化を果たしている。また、新たに作付した大豆についてはJAに納入され、全農の方で豆腐や煮豆等に活用されているし、小松菜についても、農業普及指導員による販路などの指導が行われている。

(委員)

- ・ この地域においては、組織化や販路開拓の方が先行的に進んでいて、この農地整備事業によって、それらが相乗効果として良い方向に進んでいると解釈してよいのか。

⇒地元も熱意をもって取り組んでいることから、そのように考えている。

○高成1号線（林道）

(委員)

- ・ 擁壁や駒止に県産材を有効利用するのは、良いアイデアだと思うし、出来上がった感じも非常に良いが、コンクリート製品等と比べて、耐用年数等はどうなのか。

⇒駒止については、衝撃等の計算をして（コンクリート製品と）同等の評価をいただいている。また、土留め工についても安全計算をしており、またこの部分に木を使うことにより中に灌木等が入るため、緑化が早期に図れるという効果もあるものとする。

(委員)

- ・ 沿線の人工林面積について。982ha、30.1%とあるが、この人工林は、主伐、伐採可能な状態なのか。

成熟度の問題ではなく、地権者、所有者の問題で。持ち主がいなくなってしまうて手が入れられない山林や、売却されてしまう森林がかなりあると聞く。

⇒人工林は、当然人が植えたもので、それ以降、下刈り、除伐、間伐と繰り返し作業をしてきている。

これまでもそれらの作業を行うときには所有者の了解をもらって手を入れさせてもらっているため、今後、主伐にあたっても、改めて了解はもらうことになるが、これまでのように作業が進められるものと考えている。

(委員) ではこの 30.1%の人工林には、この林道整備事業の効果が及ぶと考えてよいか。

⇒はい。

(委員)

- ・ コスト削減ということで、勾配が急なところを除いて未舗装でされるということ、また路肩幅も縮減するというようなことも資料に記載されているが、最近の急激な大雨や、融雪等の影響を受けたりしないのか、例えば陥没したりしないのか心配。

⇒林道は基本的には舗装しないということがベースになっており、急勾配でなかなか車両が上がらないといったところについては舗装することとしている。勿論、災害が起こらないような林道を作るということで、工夫をしているところだが、全く林道災害がないわけではなく、過去にもゲリラ豪雨の異常出水等で被災したところはある。そうした場合は、林道災害復旧事業で復旧を行っていくことになる。

(委員)

- ・ この林道については、木材を運搬するといったこと以外にも、登山道としての役割もあり、一般の人も使うということなので、勿論コストのことも大事だが、人命的な観点から、災害に強い林道であってほしい。